

# ストップ・ざ・がんの会だより

Vol. 5 2013. 05

発行：NPO法人ストップ・ざ・がんの会 (代) 762-3010  
 事務局：福岡市中央区天神2-13-7 福岡平和ビル3階 (公財) 福岡県すこやか健康事業団内

## 第12回 自主講演会開催、そしてご協力を！

爽やかな季節になりました。いかがお過ごしでしょうか。さて今年は少し早めの自主講演会となりました。先日すでにお手元に届いております講演会のチラシを観られた会員が「〇月〇日集りがあります。配布したいと思います」「あと〇〇枚チラシを送って下さい」「私にはこの位しか協力できなくて・・・」と言われた言葉はそれまで集客数云々で大変落ち込んでいた私の心を前向きにしてくれました。長年、日本の「がん死」は今もトップです。平成25年3月16日内閣府はがん対策に関する世論調査の結果を発表しました。それによると、やはり日本のがん検診受診率は20~30%と依然と変わらず低く、未受診理由のひとつに約36%が「結果が怖い」の回答でした。それでも私達は幸せな人生を送る為に健康な時にがん検診を受けましょう！早く見つければ治る時代ですと会員一同地道に活動しています。 下田 八須子

### 第12回講演会

- 口腔がん～予防を早期発見のための自己診断～福岡歯科大学 大関悟教授
  - 肝臓がんってどんながん？～予防と治療～九州がんセンター 荒武良総先生
- 日時：平成25年6月15日(土) 12:30～ 開場は12時～  
 場所：読売新聞西部本社「よみうりプラザ」(福岡市中央区赤坂)



### 2013年博多どんたくに参加しました 田中会員

5月晴の中、5月3日に第52回博多どんたく港まつりに参加しました。3日、4日の二日間で220万人の人手を呼ぶ市民参加型のお祭りですが、行進は370団体が冷泉公園から天神まで行いました。今年もがんバツテン元気隊の一員として、我々 NPO法人ストップ・ざ・がんの会のメンバー15名が参加しました。音楽は水前寺清子の365歩のマーチで行進し、カスタネットとタンバリンを貸与されて、それを使用しての行進でした。残念ながらあまり響きが良くなかったように感じましたが、伴奏の車の横だったため聞き辛かったのでしょうか。



### 祝 NPO法人化 1周年 ～懇親会の開催～ 沖会員



懇親会の開催 昨年4月の法人化に伴い運営にいろいろ制約もあったが、無事1周年を迎えることができ、会員の皆様のお陰と感謝している。去る4月16日夕6時から「花万葉」で1年間の反省も兼ね懇親会を開催した。会は定刻に下田理事長の挨拶で始まり、また、井手理事長、原会長からも参考になる貴重な挨拶も頂いた。ありがとうございました。下田理事長をはじめ、現役で日頃なかなか話のできない会員ともおおいに意見交換し親交を深めた。それに、すこやか健康事業団、聖マリア病院の皆様とも親しくお話し出来たのも今後の事業展開に参考になりそうである。1年間の運営の反省、今後の活動等について参加者総勢19名がそれぞれ各自の意見を述べ合い大変有意義な会となった。(参加者 井手理事長、原会長、北川院長、城戸室長、野村室長、池田係長、安武、原田、宮原、扇、沖、岡村、下田、田中、筑紫、内藤、堀川、大田、瀧尻の各氏)  
 (公財)福岡県すこやか健康事業団と聖マリア病院から、それぞれご厚志を頂戴しました。

### 今宿公民館出前講座 岡村会員

4月25日、田中氏の体験談、寸劇。池田保健師と安武保健師からがんの話をしてもらいました。田中氏は初期の胃がんの手術で胃が三分の一になり、メタボ体型から標準体型になり、10年後の現在は疾患もなくなり、体調がよくなりました。家族もやっと安心してしています。また、田中氏の御叔母上様は40代に乳がんにかかったが初期だったため、治療がうまくいき、80代まで生きられ天寿を全うされたと語られた。寸劇は何人かが久しぶりの役でスムーズに演技が出来ず、観客に失笑を誘い、客と演技者の対話のような場面も生まれました。二人の保健師の話は、質問形式(例:がんの細胞ができる年数、一日のアルコール量とたばこを吸うと一か月でどれくらいの金額になり、ある年数? 吸うと家が軒建つ)また、検診時の注意事項として大腸がん検査の検便の取り方、低温で保存し検査に出す等、詳しく説明してくださいました。5月8日の検診では受診者が昨年より少し増えていました。



4月16日 天神テララにて

### コラム 大岸会員



「こんにちは、ヘルパーの大岸です」と、利用者様のお宅で訪問介護の仕事をしています。いつも元気で大きな声で挨拶をしようと心掛けています。仕事はほとんど掃除と料理、買物です。これで介護ヘルパーなのかと思いましたが、利用者様の「ありがとうございます」の言葉に私も又、「ありがとうございました。また来ます。」と言って帰ります。お身体が不自由で、お一人暮らしの利用者様にとって、ヘルパーとの会話は待ち遠しく、嬉しく思っています。その上感謝までして頂き、私自身も今日も仕事が出来たなあと、ホッとします。隣近所の方に会った時には、私から声かけをしています。まだまだ自然に笑顔が出来てないかもしれませんが、相手の方と心が通じていければと思います。触れ合う機会が少なくなった現在、一軒一軒訪問するヘルパーの仕事は貴重な役割を担っていると自負し、皆様に喜ばれるヘルパーになっていきたいと思っています。

### 編集後記 大田

今回から編集をする事になりましたが、なかなか慣れない作業で手こずりました。見やすく分かり易い物を作っていきたいと思っておりますので、皆様あたたかい目でお見守りくださいませ。

読売新聞 2013年4月2日(火)朝刊28面より  
 ストップ・ざ・がんの会が公益財団法人正力厚生会の2013年度がん患者団体助成事業の助成対象に選ばれました。